

自己評価 A:100≦(目標達成) B:80≦(ほぼ達成)<100 C:(できていない)<80

●達成度は、26年度目標値に対する平成27年1月末の評価値で算出

●25年度評価値欄の斜線は、評価指標の変更に伴い年度比較が不可能であることを意味する

評価計画						自己評価						学校関係者評価			
学校が果たす役割	中期経営目標	短期経営目標	担当分掌	目標達成のための方策	評価指標	26年度目標値	25年度	26年度	達成度	評価	結果(課題)と改善方策について	評価値の元データ	評価	コメント	
							評価値	評価値							
確かな学力の育成	基礎学力の定着	望ましい学習習慣の形成	教務	望ましい学習習慣の形成と学力の向上 ①授業の始めと終わりの時間厳守、挨拶の徹底と、望ましい授業態度の育成	(1)望ましい授業態度が身に付いている生徒の割合(昨年目標値95%)	98%	98%	97%	99%	B	(1)昨年度に引き続き、落ち着いた雰囲気の中で授業が受けられている。この状態が続くように今後も指導していきたい。	生徒アンケート①と②	A	・学校全体として勉学に取り組む姿勢が定着しつつあるように感じる。また、結果として成果が少しずつ現れているように感じる。 ・授業への態度等、高いレベルで安定している。 ・チャレンジする生徒の割合が上がっており、結果以上の向上が見られる。生徒のチャレンジ精神を、より高める指導をお願いしたい。	
				②適切な課題による家庭学習の習慣化	(2)課題等を提出している生徒の割合	90%	88%	93%	103%	A	(2)教員の粘り強い指導の効果もあり、課題提出率は向上している。ただし、家庭学習が全生徒に定着しているとは言えない。また、学力向上に向けて様々な教科で課題を出すようにしていきたい。	校内統計			
		個に応じた教育の推進	教務	TT及び個別指導の実施 ①TT・少人数指導の効果的な実施 ②個別指導の充実	(3)教材や教え方が工夫されていて、授業内容が理解しやすいと感じている生徒の割合	85%	84%	86%	101%	A	(3)今後も全教員の共通理解のもとに、すべての生徒が満足できる授業を目指して、教材研究や授業研究に取り組んでいきたい。	生徒アンケート⑥			
		読書習慣の育成	図書	読書への意欲喚起 ①利用しやすい雰囲気作り ②図書購入リクエストの実施 ③「図書館だより」の充実 ④朝読書の支援	(4)読書に意欲的に取り組んでいる生徒の割合	90%	93%	95%	106%	A	(4)話題の本の展示や調べ学習対応など利用しやすい雰囲気作りには安定して取り組めた。また、今年度も朝読書に落ち着いて取り組むことが出来たことが評価達成の大きな要因である。来年度も継続して取り組みたい。	生徒アンケート③			
	専門高校の特色を生かす	商業・情報教育の推進	商業	特色ある商業・情報教育の推進 ①充実した施設・設備を活かした先進的な授業の実施 ②資格取得・検定合格のための指導の充実 ③情報パートの内容充実とビジネスマナー教育の推進	(5)県商研表彰生徒(1級2種目以上取得等)の割合が3年生(85人)の20%以上	100%	35%	94%	94%	B	(5)3年生16名が表彰生徒となり、昨年の7名から倍増した。上位級を意欲的に受験する生徒が昨年より増え、ほぼ目標値を達成した。しかし、表彰対象生徒の大半が情報処理科であり、今後他学科の生徒の資格取得率向上の方策を検討していきたい。	校内統計	B	・継続して生徒に目標設定をさせて、改善してほしい。 ・学習面での達成感の積み重ねを大事にしてほしい。 ・(5)の評価指標は、1級取得者数の方がわかりやすい。学校評価表の区分自体も再検討してほしい。 ・1級取得者数増を目指しつつ、全体の底上げも大事にしてほしい。	
					(6)情報処理国家試験の合格人数5名以上	100%	60%	60%	60%	C	(6)ITパスポート試験合格者は3名にとどまったが、3年生で2月にITパスポート試験に挑戦するなど、最後まで頑張るという雰囲気が徐々に出来上がりがつつある。情報処理や課題研究の授業等を通して、より上位の試験に合格できるよう指導方法の工夫と改善を図りたい。	校内統計			
					(7)情報パートでの経験は自分にとって役立つと感じた生徒の割合	90%	91%	92%	102%	A	(7)パートでは商品を売るだけでなく、案内、掃除、駐車場の誘導など数多くの役割があり、事後アンケートでは多くの生徒が責任とやりがいを見出しながら活動する様子が伺えた。今後もこうした生徒の割合を一層伸ばせるよう、望ましい勤労観を育む取り組みを行っていきたい。	生徒アンケート④			
豊かな人間性の育成	基本的生活習慣の確立と学校生活の充実を図る	望ましい生活習慣の育成	教務 生徒 商業	基本的生活習慣を育成する指導 ①個々の登校状況を把握し、全教員が連携した欠席・遅刻の防止(週2回、月5回以上の遅刻を目安に個別指導実施)	(8)毎日きちんと学校に登校する生徒の割合(出席率)	99%	99%	98%	99%	B	(8)欠席が続く生徒については、校内で情報を共有し、家庭との連携を取って対応してきた。今後もきめ細かい指導をしていく必要がある。	校内統計	A	・全体的に生徒に落ち着きが見られる。指導の成果が現れている。 ・生徒指導が徹底されていると感じる	
				②挨拶の励行(立ち止まって挨拶するよう指導)	(9)遅刻をしない生徒の割合	99%	99%	99%	100%	A	(9)1・2学期合わせて遅刻回数が計61回(通院遅刻等も含む)で、評価値は99.8%だった。寝坊による遅刻はほとんどない状況であり、この傾向を継続させていきたい。	校内統計			
				③計画的指導にもとづく頭髪・服装規定の遵守、徹底 ④礼法指導の徹底(ウィークスタートの実施)	(10)身だしなみをきちんと整えている生徒の割合	95%	94%	92%	97%	B	(10)昨年度よりもより厳格に指導を実施してきたため達成度はBであったが、概ね想定内の良い結果となった。しかし、まだ全生徒というわけでは無いため、引き続き全教員の共通認識のもと、計画的に指導していく必要がある。	校内統計			
	人権教育の充実を図る	人権・同和教育の推進	総務	他人を思いやる心、感動する心の育成 ①生徒会・部活動の活性化 ②上級生が下級生をサポートする仕組み(JS制度)の創設 ③アンケートQU(心理検査)の実施と活用	(11)自分の居場所があり、人から認められていると感じている生徒(アンケートQUで学級生活満足群に属する生徒)の割合が、52%以上<前年度の本校の値+5%>	100%	89%	81%	81%	B	(11)全国平均は上回っているものの、前年度から2年連続で減少しており、頑張りを認め合える雰囲気や、頑張りやすい雰囲気作りなど、次年度以降も継続して、組織的な取り組みを行う必要がある。	アンケートQU結果 本校 42.0% 全国 36.0%	B	・(11)の評価はAに相当すると思うが、元の目標値が高すぎるので、次年度見直しが必要ではないか。	
					人権・同和教育の推進 ①生徒・保護者向けの研修機会の充実と、教職員研修の実施 ②校内外の各機関との連携調整と修学支援制度の活用推進	(12)周囲への配慮が行動レベルで実行できている生徒(アンケートQUの結果)の割合が、39%以上<前年度の本校の値+5%>	100%	88%	89%	89%	B	(12)結果は昨年度からは微増にとどまった。今後も継続して、周囲への配慮ができる生徒を増やす取り組みを行ってきたい。			アンケートQU結果 本校 34.6% 全国 33.1%
					(13)周囲と能動的に関わることができる生徒(アンケートQUの結果)の割合が、36%以上<前年度の本校の値+5%>	100%	86%	84%	84%	B	(13)結果は昨年度から微減ということもあり、今後特に「情報祭」等の大きな行事で、生徒が積極的に関わり合いを持てる場面を増やしていきたい。ただ一方で、生徒会を中心に主体的に動ける生徒が年々増加していることも評価したい。	アンケートQU結果 本校 30.2% 全国 29.4%			
			(14)人権に関わる講演会やLHRの活動が自分を見つめ直す機会になったと感じている生徒の割合	75%	79%	81%	108%	A	(14)昨年度も目標値を上回っていたが、今年度の評価値はさらに2%上昇した。引き続き来年度も、講演会講師の選定やLHR活動の内容を工夫し、生徒により良い機会を提供していきたい。	生徒アンケート⑦					

自己評価 A:100≦(目標達成) B:80≦(ほぼ達成)<100 C:(できていない)<80 ●達成度は、26年度目標値に対する平成27年1月末の評価値で算出

評価計画				自己評価						学校関係者評価				
学校が果たす役割	中期経営目標	短期経営目標	担当分掌	目標達成のための方策	評価指標	26年度目標値	25年度	26年度	達成度	評価	結果(課題)と改善方策について	評価値の元データ	評価	コメント
							評価値	評価値						
進路保障	進路指導の充実・強化	進路指導の充実及び定着指導の強化	進路商業	望ましい勤労観・職業観の育成 ①LHR等を利用した計画的な進路指導の実施 ②企業見学、インターンシップの実施 ③外部講師を招いた進路ガイダンスの実施 ④ハローワーク、県関係機関等との連携強化 ⑤進路面談の積極的実施と、進路情報の確実な提供 ⑥各種適性検査や学力模試の実施と活用	(15)在学中に進路決定する生徒の割合	100%	90%	96%	96%	B	(15)就職については好景気にも支えられ順調に決定した。第1志望の企業・学校に合格した生徒の割合は、昨年よりさらに向上した。ただ、進路に対するこだわりやや欠ける生徒も存在しているように感じられた。進路決定率をさらに上げるためには、1・2年次から、保護者も含めた啓発活動を行っていくことが求められると感じる。	校内統計	B	・学校からの指導による方策は十分行われている。進路希望調査が学期に2回行われ、保護者と生徒がともに進路を考える機会となっているのは大変良いことである。 ・保護者も地元企業を見学に行くなどの取り組みが必要ではないか。
					(16)進路に関する学習や適切な進路指導を受けていると感じている生徒の割合	90%	83%	89%	99%	B	(16)1年生の企業見学は、昨年よりさらに工夫して実施した。3月に予定している企業説明会も、昨年より参加企業数を増やす方向で準備中である。進路希望調査の回数を増やし、希望企業・学校を必ず具体的に書くよう指導しており、生徒・保護者ととも教員も進路について考える機会を増やすことができていると思う。	生徒アンケート⑭と⑮		
たくましく生きるための健康・体力	健康教育の推進	安全で清潔な環境作り	保健	校内美化活動の推進 ①清掃指導の徹底 ②安全点検の定期実施 ③教員及び生徒(委員)による校内巡視の実施 ④ゴミの分別収集の徹底	(17)真面目に掃除に取り組んでいる生徒の割合(昨年目標値90%)	95%	91%	89%	94%	B	(17)熱心に掃除する生徒が多くみられたが、生徒アンケートでは生徒の自己評価は目標値に届かなかった。また、今年度から私物のゴミの持ち帰りを呼びかけ、ゴミの量を減らすことができた。呼びかけが十分ではなかったため、来年度はこの取り組みを一層推進していきたい。	生徒アンケート⑧	B	・ゴミの減量化等、校内美化への取組が素晴らしい。 ・ゴミが十分の一になったのは素晴らしい。継続して行ってほしい。
					(18)朝食をとっている生徒の割合(本年度新設)	95%	85%	89%	B	(18)今年度から、保健委員会が調査を行い、『毎日摂る85%』、『時々摂る11%』と、かなりの生徒が朝食を摂っていた。来年度は、保健委員会だより・呼びかけ等で一層の啓発活動を行い、必要性を訴えていきたい。	校内統計			
					(19)年間欠席日数が30日未満の生徒の割合	99%	99%	98%	99%	B	(19)今年度もスクールカウンセラー来校回数が多く、悩みを持つ生徒が多い現状において、この制度を有効に活用できた。また、「明るい学校推進委員会」でも、現状を把握して対応してきた。今後もこの取り組みを継続して生徒の支援に努めていきたい。	校内統計		
					(20)部活動に入っている生徒の割合	85%	84%	78%	92%	B	(20)魅力的な部活動の推進と、そのための生徒指導部としての支援(部活動体験期間の取り組みの充実、未加入者への加入の勧めなど加入率アップの方策)を両輪として、継続して取り組んでいきたい。また、来年度以降も継続して、部活動による中高連携を推進していきたい。	校内統計		
					(21)自転車のマナーを守り、事故防止につとめている生徒の割合	95%	97%	96%	101%	A	(21)交通安全週間時の街頭指導で地域の方からのお褒めの言葉を頂くなど、年々マナーは向上しているように感じるが、傘差しや並進など、指導が必要な場面はまだある。今後も継続的に、外部関係機関等とも連携してマナーアップの取り組みを進めていく。	生徒アンケート⑨		
安全意識の高揚	生徒	安全に関する自己管理意識の高揚 ①街頭指導(春・秋)の実施 ②貴重品の管理と自転車の施錠の徹底 ③自転車点検の実施(年複数回) ④交通安全指導の実施(交通マナーの遵守) ⑤不審者情報等の情報提供、周知徹底	(22)自転車の施錠率(昨年目標値95%)	90%	72%	67%	74%	C	(22)昨年度から、予告無しで年に複数回、鍵かけを含めた整備についての点検・指導を行っている。今年度さらに点検回数を増やしたため評価値は低くなったが、実施のたびに施錠率、整備済み自転車の割合が向上しているため、今後も継続して指導し、良い習慣を身につけさせたい。	校内統計				
			(23)公開授業、授業参観を3回以上行った教員の割合	100%	100%	100%	100%	A	(23)参観後「教科の違いはあっても授業の展開の仕方、発問、板書、声の使い方など、非常に参考になる」自分の授業の時とは違う生徒の様子が見られ、自分も生徒への要求レベルを上げていこうと思う」といった感想が多くあった。教員が自らの授業を見直し、向上させるために、今後も継続して実施していきたい。	校内統計				
信頼される学校	地域と連携し、地域に開かれた学校づくりの推進	保護者、地域、中学校との連携の強化・深化	総務 生徒商業	PTA活動の一層の活性化 ①「PTA会報」等の発行 ②HP・携帯電話用HPや文書による学校からの情報提供充実 ③各種研修会等の充実	(24)PTA会報、学年だより等を読んでいる保護者の割合	90%	81%	77%	86%	B	(24)評価値は昨年度より若干下がった。来年度は引き続き、PTA組織や各学年会の協力を得ながら、内容の一層の充実を図りたい。また、学校ホームページで提供する情報についても、より一層の工夫を行っていきたい。	保護者アンケート⑦と⑧	B	・地域のボランティアの参加が進んでおり、地域との連携が進んでいることが見受けられる。 ・学校のホームページをもっと保護者に見てもらったり、中学生に高校生活の様子を伝えるための方策として、生徒のアイデアも活用してほしい。 ・中学校と、部活動等での交流も進めた方がよいのではないか。
					(25)地域ボランティアに参加している生徒の割合	40%	39%	42%	105%	A	(25)例年以上に多くの生徒がボランティアに参加した。地域で頼りにされていることを知り、ボランティアにより得られるものを伝え、一人でも多くの参加が増えるよう、情報提供のあり方も検討していきたい。また、地域からの要請も増えているので、より積極的に取り組んでいきたい。	校内統計		
					(26)連携ができたと感じている教職員の割合(昨年目標値70%)	75%	75%	68%	91%	B	(26)今年度は目標値を5%上げたが、評価値は昨年度より2%下がった。来年度は、各教科中高合同の授業研究や、出前事業、招待授業等も一層充実させて、中高連携を積極的に推進していきたい。	教員アンケート⑱		